



これは正しい節分祭 長瀬、宝登山神社節分追儺祭

2007年2月3日

蠟梅見物に長瀬の宝登山に行ったら、節分追儺祭がもうすぐ始まるころ。
少し待つけどせっかくだから見ていこう。



神社境内入り口に首都圏自然歩道の案内板があった。「ほどさん」と読むのか。15分待てば節分祭が始まる。鬼石から走ってきて、蠟梅を見て帰ると暗くなるころ。時間の心配はあるが、ライトの用意もしてきたし、せっかくだから見物しよう。



石段の上に本殿、神楽殿がある。左手の神楽殿では、なにやら舞いが行われ、ハイキング帰りの人や家族連れが見物していた。



正面の本殿では、これから何が始まるか。中央をあけるように言われ、その結果最前列になった。ラッキー！正装した年男のお爺さんたちが、階段を登ってきて、本殿の中に入って行った。お払いだの、祝詞だのが執り行われている。よく聞こえないし、聞こえたところでわけわからない。正しい神事である。観光のためのものではない。周囲にいたギャラリーのオバ様たちは飽きてしまって「もう帰ろうか」などという声が聞こえる。

このとき神楽殿のほうでどよめきが。
見ると、そちらで豆や餅がまかされている。
わ〜ん、あっちを見物すればよかった。見ていても面白いし、先に終わるし。みかん



や豆が運ばれ、いよいよかな、と思うところ
 んどは玉串奉納。オバ様たち、うんざりし
 た様子。でも、ほら、やっと本殿からお爺
 さんたちが出てきた。手に持っている杓の
 中を見せてもらおうと、豆に餅にみかん。早
 く蒔いて、とオバ様たちがさわぎ、フライ
 イングでわけてもらっていた。



正しい節分祭では、まだまだ蒔くところまで来ない。四方のお清めをしなければならない。まず、杓をささげて四方を向き一回
 り。豆をバラッ。1方向ずつずらして四方に豆を蒔く。こちら側のとき目の前に落ちたが取れなかった。なかなかむずかしい。次に
 同様に矢を射る。これは背の高い人勝ちだ。手を伸ばしたが届かず、前のお爺さんの烏帽子をつかんでとってしまった。



それから本殿に向かって「鬼は外、福は内」。一瞬ボーッとしていたら、急に押し合いへし合い状態に。ギャラリーへの豆まきが
 始まった。豆や餅を我先に取ろうとして大混乱。「やめて〜」なんて悲鳴が上がって、子ども連れのお母さんが顔を引きつらせてい
 る。その前に転んでいる人がいたので、引っ張り起こす。でも全くバランスを失っていて手を貸したくらいでは自分から起き上がる
 ことができず転んだまま。やっと起こしたら、子どもではなくお婆さんだった。転んでも手に握り締めていた餅をお礼にとわけてく
 れた。

子連れや年寄りには危ないな。うっかり孫連れてこんな中に入ったら大変だ、と怖くなってしまった。縁起物もらうのに必死に
 なって事故ったらしゃれにならない。豆、餅、みかんに群がる人々をかきわけ、退散した。

秩父周辺という人気観光地、蠟梅と組み合わせてギャラリーが集まっていたが、観光客むけではない、正しい節分祭だった。

[上州よいとこ何度でもおいでTOPへ](#)

[からっ風の丘からTOPへ](#)